

京都大学学際融合教育研究推進センターナノテクノロジーハブ拠点利用内規

(平成23年 3月 23日拠点マネージャー裁定)

(趣旨)

第1条 この内規は、京都大学学際融合教育研究推進センターナノテクノロジーハブ拠点(以下「ハブ拠点」という。)の利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 ハブ拠点が設置供用する装置及び実験室等のうち、別表第1に定める装置群(以下「装置群」という。)及び別表第2に定める実験室等(以下「実験室等」という。)について、科学技術の発展に資する研究開発に係る実験研究の利用に供するものとする。

(利用日)

第3条 ハブ拠点の装置群及び実験室等の利用日は、次の各号に掲げる以外の日とする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3) 12月29日から翌年1月3日まで(祝日法による祝日を除く。)
- (4) 6月18日(創立記念日)

2 前項の規定にかかわらず、運営責任者(京都大学学際融合教育研究推進センターナノテクノロジーハブ拠点要項第3第1項の規定によるものをいう。以下同じ。)が特に必要と認めるときは、臨時に利用させ、又は利用を中止させることがある。

(利用時間)

第4条 ハブ拠点の装置群及び実験室等の利用時間は、午前9時から午後5時15分とする。

2 前項の規定にかかわらず、運営責任者が特に必要と認めるときは、その時間を延長し、又は短縮することができる。

(利用者の資格)

第5条 装置群又は実験室等(以下「装置群等」という。)を利用することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 本学の教職員及び学生
- (2) 学術研究を目的とする機関に所属し、研究に従事する者
- (3) 企業等に所属し、研究開発に従事する者
- (4) その他、運営責任者が特に必要と認められた者

(利用形態)

第6条 利用者の利用形態は以下のとおりとする。

- (1) 技術相談
- (2) 装置群等の利用
- (3) 技術代行及び技術補助(以下「技術代行等」という。)

(利用の申請)

第7条 装置群等を利用しようとする者は、所定の申請書を運営責任者に提出し、その許可を受けなければならない。なお、利用期間は許可を受けた日から最長で1年とする。また、利用期間終了後も継続して利用したい場合には、再度申請を行うものとする。

- 2 技術相談を利用しようとする者は、ハブ拠点と打合せを行い、相談の回答にハブ職員が装置群等を使用する必要がある場合は所定の申請書を運営責任者に提出し、その許可を受けなければならない。
- 3 技術代行等を利用しようとする者は、文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム事業に則って研究成果の公開についてあらかじめハブ拠点と合意し、所定の申請書を運営責任者に提出し、その許可を受けなければならない。
- 4 運営責任者は、第1項、第2項及び第3項により利用を許可した者に対して、その旨を通知するものとする。
- 5 運営責任者は、第1項、第2項または第3項の許可に際し必要と認めるときは、当該利用について必要な条件を付すものとする。
- 6 第1項、第2項または第3項の許可を受けた者は、当該装置群等の利用に関し責任者（以下「利用責任者」という。）となる。
- 7 利用責任者は、利用の許可を受けた後において、利用日時を変更する場合は、速やかに運営責任者に申し出て、その許可を受けなければならない。
- 8 利用責任者は、利用の許可を受けた後において、自己の都合により利用を中止する場合、速やかに運営責任者に届け出なければならない。

（利用責任者の責務）

第8条 利用責任者は、装置群等の利用に関し、次の各号に掲げる事項を遵守し、適正に利用しなければならない。

- (1) 利用を許可された装置群について、高度専門技術職員等による十分な教育を受けること。
- (2) 利用を許可された装置群等及びその設備、備品等の保全に努めること。
- (3) 利用を許可された目的以外に使用しないこと。
- (4) 利用を許可された装置群等及びその設備、備品等を他の者に一部又は全部を転貸しないこと。
- (5) 利用を許可された装置群等及びその設備、備品等に特別の工作をし、又は許可なく原状を変更しないこと。ただし、運営責任者が許可する場合を除く。
- (6) その他運営責任者が定め、又は指示する事項

（利用の許可の取消等）

第9条 運営責任者は、次の各号の一に該当する場合、装置群等の利用の許可を取り消し、又は利用を中止させることができる。

- (1) 利用責任者が、この内規に違反し、又は違反するおそれがあると運営責任者が認めるとき
- (2) 利用責任者が、所定の申請書に虚偽の記載をしたとき
- (3) 本学において、管理上の事由が生じたとき

（報告義務）

第10条 利用責任者は、運営責任者からその利用にかかる事項について報告を求められた場合は、それに応じなければならない。

（利用負担金等）

第11条 利用責任者は、本学の指定する方法により、利用負担金等を納付しなければならない。

- 2 利用負担金等の額は別途定めるところによる。

3 一旦納付された利用負担金等は、返還しない。ただし、次の各号に掲げる場合は、利用負担金等の全部又は一部を返還する。

(1) 本学の都合により利用の許可を取り消し又は利用を中止した場合

(2) 利用責任者の都合により、装置群の利用を中止したときに、納付された利用負担金等を第5項に規定するキャンセル料に充当したうえで、残額がある場合

4 利用負担金等は、本学の発行する請求書により、請求書発行日の翌月末までに納付しなければならない。

5 装置群の利用について、第7条の届出を本学において受理した日が、利用日の30日前以後の場合、別に定めるキャンセル料を納付しなければならない。ただし、当該利用に係る利用負担金等が、すでに納付されている場合は、その利用負担金等をキャンセル料に充当する。

(消耗品等)

第12条 装置群等で使用する消耗品及び材料等は原則利用責任者が準備し、負担するものとする。

2 ハブ拠点にある消耗品及び材料等を使用した場合は、その実費を負担するものとする。

3 利用責任者が準備し、負担する材料については、本学の諸規程に従い運営責任者が使用を認めたもののみとする。

(損害賠償)

第13条 利用責任者は、本人又は当該利用にかかる関係者がその責に帰すべき事由により装置群等及びその設備又は物品を滅失、破損または汚損したときは、その損害を賠償しなければならない。

(原状回復)

第14条 利用責任者は、当該装置群等の利用を終えたとき(第8条の規定により利用の取り消し、又は利用を中止した場合を含む。)は、直ちに原状に回復して返還しなければならない。ただし、運営責任者が特に認めたときは、この限りではない。

2 利用責任者が原状回復の義務を履行しないときは、運営責任者は利用責任者の負担においてこれを行うことができる。この場合利用責任者は、運営責任者に異議を申し立てることができない。

(装置等利用の明記)

第15条 利用責任者は、装置群を利用して行った研究の成果を論文等により公表するときは、当該論文等に、ハブ拠点及び当該装置を利用した旨を明記するものとする。

(免責)

第16条 ハブ拠点は、利用者がその目的を達成するように協力、支援するが、その結果を保証するものではない。

2 ハブ拠点は、利用者がハブ拠点の設備群等の利用によって利用者に生じた損害について、利用者に責任を負わないものとする。

3 ハブ拠点の設備群等の利用に基づく利用者による商品の販売、役務の提供、その他の行為によって利用者に損害が発生した場合にも、ハブ拠点は利用者に対し責任を負わないものとする。

(安全衛生管理)

第17条 利用責任者及びハブ拠点の装置群等の利用にかかる関係者は、当該ハブ拠点における安全衛生管理について、関係する法令及び本学の諸規程(以下「法令等」という。)

を遵守するとともに、法令等に基づき運営責任者が行う指示に従わなければならない。

- 2 利用責任者は、騒音、振動、水質汚濁及び悪臭等の環境問題が発生しないよう、予防措置を講ずるものとし、問題が発生した場合は、利用責任者の責任において速やかに解決のための措置を講じなければならない。
- 3 前項の問題が解決されない場合は、運営責任者は、装置群等の利用の許可を取り消し、又は使用を中止させることがある。

(秘密保持)

第18条 ハブ拠点は業務上知りえた、利用者の機密である旨文書で明示された技術上の情報（開示の際に機密である旨を明示して口頭で開示された技術上の情報で、開示後速やかに書面により機密である旨明示された情報を含む。以下「秘密情報」という。）について、第三者に対し本秘密情報を開示又は漏洩してはならない。

- 2 ハブ拠点は、法令により開示が義務付けられているとき、又は主務官庁若しくは裁判所その他の公的機関より法令に基づき開示の請求を受けたときは、第1項の規定にかかわらず、本秘密情報の開示を必要かつ相当な範囲で行うことができる。
- 3 前各項の規定は、次の各号のいずれかに該当する情報には適用されないものとする。
 - (1) 利用者から開示を受けた際、既に自らが所有していた情報。
 - (2) 利用者から開示を受けた際、既に公知又は公用であった情報。
 - (3) 利用者から開示を受けた後、自らの責によらずに公知又は公用となった情報。
 - (4) 正当な権限を有する第三者から秘密保持の義務を伴わず適法に入手した情報。
 - (5) 利用者が事前に文書により開示を承諾した情報。

4 利用者相互における秘密保持に関しては、利用者自身の管理に委ねるものとし、ハブ拠点は一切の責務を負わないものとする。

5 秘密情報の取扱いに関し、前各項に定めるもの以外に必要な事項がある場合は、別途協議して決定するものとする。

(知的財産権)

第19条 利用者のハブ拠点の装置群等の利用の結果生じた知的財産権の取扱い等については、当該発明等の発生事態を勘案して、別途協議して決定するものとする。

(その他)

第20条 この内規に定めるもののほか、装置群及び実験室等の利用に関し必要な事項は、運営責任者が定める。

附 則

この内規は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年12月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年12月16日から施行する。

別表第1 装置群

区分	装 置 群	
A	吉田キャンパス	ナノリソグラフィ装置群
B	吉田キャンパス	ナノ材料加工・創製装置群
C	吉田キャンパス	ナノ材料分析・評価装置群
D	宇治キャンパス	ナノ微細構造解析装置群

区分A～Cの装置群については微細加工プラットフォーム（京都大学）
<http://www.nanoplat.cpier.kyoto-u.ac.jp/> を参照ください。

別表第2 実験室等

実 験 室 等	
吉田キャンパス	ハブ拠点クリーンルーム（イエロールームを含む）
	ハブ拠点加工・評価室
	サテライトラボ（専有部分）・セミナー室
	サテライトラボ（共有部分）